

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年 3月 23日

事業所名 障害児通所支援事業所 陽だまり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		規定の約2倍のスペースがあるので児童が快適に過ごせる空間を確保できている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		どのような場合でも、職員配置基準以上の職員を配置して児童の安全に努めている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		障がい特性を考慮し、障壁を取り除いた全体が見やすい環境で、安全に活動できる空間づくりに努めている。(手すりやスロープ、多目的トイレ等の設置)	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎年ごとに事業計画・重点目標等を掲げ、業務改善の必要性とPDCAサイクルのやり方などを職員会議等で広く周知しながら進めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年度、事業所アンケートを実施しその結果を職員会議等で周知して、次年度の業務内容や職員の意欲づけなどに反映させている	今後も頂いたご意見を基に業務改善に努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年度、結果を職員に周知及び本法人のホームページにて公開すると同時に、保護者の皆さんが閲覧しやすいよう玄関に全ての評価結果を提示している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価は実施できていない。 今後も検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		ZOOM研修も取り入れ、定期的に内部研修等を実施することで支援の質の向上に努めている。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童や保護者のニーズを聴き取り、ニーズ漏れがないよう等注意して作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		活動プログラム立案会議を開き、職員間で意見を出し合い立案を行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもたちが楽しく過ごせるよう、日々の朝礼や終礼等を利用して見直しを行っている。また人気の活動だけでなく、行事や四季を感じられる活動を取り入れるなど活動内容を工夫している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇時には動・静の活動とそれぞれに課題を設けて取り組んでいる。また感染予防対策を実施した上での外出や、地域のボランティア団体との触れ合いなど、平常時に取り組めない活動も行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団療育を主とした活動設定から個々に合わせた個別療育に取り組んでいる。	今後も細やかな支援を提供していけるよう取り組んでいく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		週間の役割分担表を作成し、朝礼時には打ち合わせを行い、視覚で分かるボード等も活用して情報共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼では意見を出し合い当日の振り返りや引継ぎなどの情報共有を行っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		簡潔に記録できるよう書式を工夫しており、支援検証や改善等ができるよう取り組んでいる。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		支援の検証を行い、保護者から話を聴き、児童の状態に沿った支援を計画している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		子どもたちが日々充実した活動を行えるよう取り組んでいる。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校との情報共有や連絡調整は積極的に行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者の確認を取った上で情報共有を図り引継ぎを行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		保護者の確認を取った上で、卒業後に通所する障害福祉サービス事業所に情報提供を行い場合によっては様子を見に行く等、利用が定着するよう支援している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他事業所との連携には積極的に取り組んでおり、情報共有を図り助言等を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		地域の公園利用時等の外出時に触れ合う機会を設けている。	地域の公園利用時等の外出時に関わることはあるが、活動という形では行えていないので今後検討していく。
	27	(地域自立支援) 協議会等積極的に参加している	○		自立支援協議会のこども部会等に積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日の連絡帳以外にも送迎時等に保護者と対話して共通理解を図っている。	今後も保護者の皆さんが話しやすい雰囲気づくりを心掛けていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		充分ではないが可能な限りの支援は行っている。	専門的知識がまだ不十分なので、研修等あれば参加して家族支援プログラムについての学びを深めていく。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		特に初めて福祉サービスを利用する保護者の皆さんについては分かりやすい説明を心掛けている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的な話し合いの場や保護者との日々の対話から悩み等を聴き出して対応している。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今年度も感染症予防の考えから保護者会等を開催することができなかった。来年度は、保護者が参加しやすく交流しやすい場づくりを検討していく。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		子どもや保護者から苦情があった際は、迅速かつ丁寧な対応を心掛けている。	これからも適切な対応を心掛けていく。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		陽だまり会報、法人全体の広報誌やホームページに活動の様子等を掲載して情報発信している	
	35 個人情報に十分注意している	○		写真の掲示等を含む、個人情報の取扱いについては十分に注意しており、職員に対する注意喚起も定期的に行っている。	今後も職員相互で気をつけ注視していく。
非常時等の対応	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもたちや保護者が気持ちを表出しやすい雰囲気づくりに心掛けている。	
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	事業所(法人)主催の花壇のお花植えを地域住民の方と一緒にいき、定期的に行われている草取りにも参加している。	
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルに沿った取り組み、会議の実施を行っており、防犯カメラも適所に設置している。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回以上のペースで訓練を行い意識向上を図っている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内に虐待防止委員会を設置し、会議等で話し合われた内容を職員間で共有して注意喚起すると同時に、外部講師を迎えての研修会を毎年開催している。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		法人内に身体拘束適正化委員会を設置し、勉強会や会議等で話し合われた内容について職員間で共有している。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時や必要に応じて食物アレルギー等については詳しく確認しており、おやつ提供時等では皿や内容の区別をしてアレルギー発生防止に努めている。	現在医師の指示書に基づく対応を必要とする対象児童はいない。
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		法人内に事故対策委員会を設置し、事業所内だけでなく法人全体のヒヤリハットを共有し対策している。		